

宇宙空間に漂う人間と劇場の痕跡

ダンス×現代サーカスで描き出す

『Disco on the planet』

interviewee

平井 優子 [演出・振付]

取材・文 | ステージナタリー 熊井玲



——ダムタイプ作品など世界の舞台で活躍されてきた平井さんは、2010年に岡山県に拠点を移し、以降ハレノワのプレオープン記念公演「ハレノワ賛歌」に出演されたほか、若手ダンサーの育成とスキルアップを目指したワークショップ企画「ハレノワダンスラボ」で講師を務めるなど、劇場とさまざまな関係を築いてきました。今回、新作のオフアートをどのように受け止めましたか？

1年前にハレノワから「何かやりたいことはありますか？」とお話をいただいて、そのとき頭に浮かんだのは「ダンスとサーカスの作品がでたらいいな」ということでした。2010年に岡山で国民文化祭（編集注…全国規模で行

宇宙空間に漂う人間と劇場の痕跡
ダンス×現代サーカスで描き出す
『Disco on the planet』



撮影：井上嘉和



われる、伝統芸能や文学、音楽、美術などの各種芸術、食文化などの生活文化等の活動の祭典の振付をした際に、サーカスの方に出演していたことがあったのですが、世界観が広がったと同時にダンスとの絡みなどもっとできることがあったんじゃないか、また一緒にやりたいなと長年思っており、今回それが実現しました。

——サーカスアーティストのどんなところに惹かれたのですか？

ダンスとは違った重力の見せ方が魅力的だなと思っています。フランスにいたときは周りにヌーヴォーシルク（アート性が高い現代サーカス）など、サーカスをされている方が多く、自分にとってサーカスは身近な存在でした。日本ではなかなか一緒にする機会がなかったんですが、サーカスにゆかりがある岡山の新しい劇場で、ダンスとサーカスの作品をすることによって、劇場が歴史の時間軸上にある。ことを自分なりに考える機会になるかもしれないとも思っていますし、岡山の地元民として、劇場

と社会のつながりを考える機会になるんじゃないかとも思っています。

——今作では、人のいなくなった近未来の惑星にある、無人の劇場空間が舞台となります。どんなことから着想を得たのでしょうか？

惑星探査機ボイジャーからインスピレーションを得ました。ボイジャーには、地球の生命や文化の存在を伝える音や映像が収められたゴールデンレコードが搭載されていて、1977年に打ち上げられてから50年経ち、人間の音楽や映像を垂せたまま今も宇宙を彷徨っています。そのイメージを持ちながら、劇場空間で何ができるかなと思い巡らせていました。劇場でエアリアルなテストをした際、メインビジュアルのように暗闇で煌めくパフォーマーの姿を見て、予想以上に綺麗だったので感激しました。

——人のいなくなった惑星で、パフォーマーたちはどのような存在として描かれますか？

惑星には訪問者と、その惑星にもとめたい人たちが混在するのではないかと思います。ただもともといた人たちが生きているかどうかは、わからないのですが……。

——夢幻能のようですね（編集注：能楽の分類の1つで、主役であるシテは超自然的存在であることが多く、曲全体がワキの夢や幻として描かれる）。

そうですね。今後の稽古で変わっていく可能性はありますが、もともといる人たちが、がどうい存在なのかは、



撮影：井上嘉和

自分の中ではまだかっちり決めずいたいなと思っています。また今回の主体は劇場そのものだと思っています。ですが、全体に対して新能のようなイメージを持っています。薪能って、生活音に囲まれた屋外環境で行われますよね。でも劇場は今、さまざまな音を遮断した権力的な「静寂」の中で演技が繰り上げられる。でも劇場も、かつてはもうちょっと生活音が聞こえてくる場だったと思うんです。今回はそんな劇場のあり方を逆手に取りつつ、その上で何ができるかを考えています。

——過去のインタビューで平井さんは、「あらゆる要素がひとつの世界観を同時にあらゆる方向から構築していくことが好き」とお話しされていました。まさに今回、さまざまなバックグラウンドを持つメンバーが集結しましたね。バットンエバ舞踊団ほか海外のカンパニーで長く活動してきた堀田千晶さん、瀬戸内サーカスファクトリーの吉田亜希さんと目黒宏次郎さん、兵庫県を拠点とするダンサーの本間紗世さんと本城沈樹さん、「ハレノワダンスラボ」から抜擢された土屋望さんと中川愛生さんと、7名のパフォーマーが参加しています。

そうですね。初めて一緒にいる方が多いので、こういう動きの持ち主か、どういう人柄なのか最初は何からなかったのですが、それぞれが徐々にならわかってきたのと、全員のハーモニーが見えてきたのが面白いです。堀田さんは集中力が身体にみなぎる瞬間、急に柔らかな印象になる瞬間と、身体の見せ方を自在に変えられるレンジが広い人だなと思います。吉田さんと目黒さんは、お二人とも「物が無いところが苦手」とおっしゃるんですけど（笑）、吉田さんは静寂のあるエアリアルを、目



撮影：井上嘉和

黒さんは空間と融合するような柔らかなパフォーマンスを見せてくれます。本間さんはネズミ花火のような瞬発力とエネルギーな感じが魅力です。本城さんは想像力を掻き立てられるというか、予測不能な展開を見せてくれるところが面白いですね。土屋さんは身体性として面白いものを持っていますし、まだまだ引き出しがありそう。中川さんはバレエの基礎がしっかりあり、自身の世界観を持っていてところが素敵だなと思います。

そしてテクニカルメンバーも非常に魅力的なんです。今作は特に音が重要な作品なのですが、音響フィールドレコーディング担当のサウンドエンジニアの東岳志さんはじめ、ダムタイプで出会ったメンバーなどこれまでも繋がりのある方たちが集まっていたきました。彼らが出してくれるアイデアや意見は都度刺激になりますし、やり取りを重ねることで自分が何をやりたいのかがより鮮明になっていく感じがします。先ほど「ダンサー同士のハーモニーを感じる」と言いましたが、キャストとテクニカルメンバー全員が集まったときにどんなハーモニーが生まれるのかもワクワクしています。

——本作は「瀬戸内から世界に発信する」ことを目指した、ハレノワ発の新作となります。世界で活躍してきた平井さんだからこそ感じる、日本のアーティストの強みとはどんなところだと思いますか？

今回のメンバーはどう考えても1色にまとまらなそうで（笑）、ひと口に「日本のアーティスト」と言ってしまうと良いかわかりませんが……音楽性につながる時間的な余白や静寂の使い方が上手いと思います。新たなことにそれぞれの創造力を持って挑戦してくれる方たちなので、

今、豊かなクリエイションができていていると思いますね。そして岡山のお客さんは反応がとてもダイレクトなんです。私もこれまで岡山で作品を発表していますが、自分がやりたいことを突き詰めることはもちろん大事ですが、自分のお客さんに楽しんでもいただくのも大事なことです。その感覚を持つ大切さを、私は岡山で学びました。今回もその点は意識しながら作りたいと思いますし、とにかくいいパフォーマンスと最高のテクニカルチームがそろっていますので、観て損はない作品になると思いますよ！



ひらい ゆうこ
平井 優子

90年代後半から東京を拠点にダンサーとして活動。のちにフランス、現トウルーズ・オクシタニー国立振付センターにて振付法などを学ぶ。2001年以降、ダムタイプのメンバーとしてクリエイションや世界各都市での公演に参加。その後、高谷史郎氏（ダムタイプ）や中谷英二子氏など他ジャンルのアーティストとのコラボレーションを中心に活動。バレエダンサーのための振付委嘱作品や自身のソロプロジェクト、ミュージシャン、能楽師との共演など活動は多岐にわたる。2016年度第17回福武文化奨励賞受賞。

『Disco on the planet.』

11月8日 18：00開演・9日 14：00開演 中劇場
演出・振付▶平井優子

出演▶堀田千晶、吉田亜希、本間紗世、目黒宏次郎、本城光樹、土屋望、中川愛生

公演詳細・チケット購入はP15へ